

みなさんおはようございます。早いもので2026年が始まりました。

さて今日は皆さんが行っている探究活動について話したいと思います。

昨年12月に大阪サイエンスディ2部が大阪工業大学の梅田キャンパスで行われました。後ほど表彰でも紹介しますが、本校の発表は優れています。当日、他の学校の発表もたくさん聞いたのですが、瞬間の探究活動は大阪の中でも群を抜いているなと感じました。

皆さんは今、校内を基準に考えているから、まだまだ十分ではないと感じているかもしれません。もちろんもっと検証したり、考察したりする必要はある研究はたくさんあります。でも、実は本校の探究活動はとてもレベルが上がっています。校内で高い水準で切磋琢磨できているのです。実は本校はすでに、大阪府をリードする学校になっています。

本校は大阪府のグローバルリーダーズハイスクール（GLHS）10校のうちの1校に指定されています。このGLHSというのは永久に指定されるのではなく、3年に一度見直しがあり、今は令和6・7・8年度の期間指定されていて、また令和9年以降再指定があるかどうか審議されるという仕組みです。指定を受けるためにいろいろな指標があり評価されます。進学実績・英語運用能力等も対象ですが、大きな柱に探究活動の項目があり、本校は10校の中で唯一AAAと評価されています。

そして、私は年末、SSHの情報交換会に参加してきました。この会は他の県の学校の校長先生方とそれぞれの学校の研究開発についていろいろ話をして、今後SSHという事業を続けていく上でのヒントをもらうという目的で行われています。

もちろんどの学校も県を代表する学校なので、優れた取組みをされています。でも、私は今回初めてこの情報交換会に参加して、本校の取組みが優れていることを改めて感じました。本校のように全員の生徒が、全員の先生のもとで探究しているということを他の高校に伝えると、どのような工夫をしているのか等、聞かれることが多くありました。

「全員が探究しなくてもよくて、好きな人だけしていいのなら、楽だな」と探究活動で苦労している皆さんの中には、そう思った人もいるかもしれません。

でも探究活動はとても大事なのです。それはこれから社会が問い合わせを立てて課題を解決できる人を求めているからです。以前なら「効率化」や「前例踏襲」で解決できた問題も、変化の大きい社会では通用しなくなっています。そもそも「何が本当の課題なのか」を見極める能力が不可欠になっているのです。そしてAIの普及も関係しています。AIを活用するには「問い合わせ」を正確に立てることが必要だと皆さん知っていると思います。AIは「何を解決したいか」という具体的な問い合わせを与えて初めて機能します。つまり課題を設定という部分はまだまだ人間にしかできない領域です。

そして、課題解決型の思考の影響は、大学の入試問題にも及んでいます。皆さん、模擬試験や入試問題では知識を覚えただけでは解けない問題が多いと思いませんか。定期考査ならある程度範囲や領域が分かっているので、これを使えばと解けると気づきやすいかもしれません。でも、範囲が「高校の教育課程すべて」となる入試問題では、問題に向きあうとき、どのような方法や手段を使って解決するのか、自分の持っている知識を総動員して、見込みを立てて解いていかねばなりません。そういう力が探究活動をしっかりとやっていると身につくのです。

とくに最近の入試では、会話文がでたり、図表・資料を読み取ったり、仮設を立てて結論を導き出したりするような、探究のプロセスを意識した問題が増えています。皆さんのが探究で行っている資料やデータを読み解くなど、いわば資料分析力は、初めて見るデータから情報を得るような問題で役立ちます。そして、自ら問い合わせを立て、解決策を探る経験は、複雑な文脈から正解を導き出すような、思考を必要とする場面で生きてくるのです。

3年生、いよいよ入試が近づいてきました。本校で探究活動をがんばってきた皆さんには、他校の生徒には付いていない学力がついているはずです。自信をもって挑戦してきてください。

そして2年生、もうすぐ課題研究発表会がありますね、最後まで頑張ってください。その経験は必ず将来役に立ちます。

1年生はこれから探究活動が本格化しますね。本校は先輩たちの先行研究という、素晴らしい財産がある学校です。それを活用するもよし、オリジナリティで攻めるもよし、積極的に探究活動してください。そして、先生方のサポートがこれだけ充実している学校もめったにないことも言い添えます。

それでは皆さん、健康には気を付けて3学期をスタートさせてください。以上で始業式の式辞とします。